大谷學報

第十八卷　第四號

昭和十二年十月二十日發行

聖提婆に歸せられたる中觀論書（未完）『智心髓集について』　山口益（一）
唐代淨土教徒の精神生活　道端良秀（二九）
覺如上人聖教用語の研究（二）　藤谷一海（六三）
智光の淨土教思想に就いて（中）　戸松憲千代（八一）
公海僧正と東本願寺　小串侍（一三）
佛地經に就て　西尾京雄（一四二）
新刊紹介（一六四）　國史研究會記錄（一七一）　研究室彙報（一七六）
寄贈圖書目錄（一七七）
大谷學報第十八卷總目錄（卷末）

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條　本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學內ニ置ク。

第二條　本會ハ佛教學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條　本會ノ會員ハ大谷大學教職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ贊同スル者ヲ以テ組織ス

第四條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會　長　一　名

二、理　事　二　名

三、委　員　若干名

第六條　役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス。

第七條　役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條　會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條　會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條　本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則

一、本會ハ佛教研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛教學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會　長　住田　智見

理　事　朽木　廣覺　宮谷　法含

庶務委員　阿部　現亮　北條　正韶

編纂委員　大須賀秀道　小島　惠見　安井　廣度

鈴木　弘　山口　益　德重　淺吉

大庭来治郎　石塚　達雄　龍山　章眞

横川　顯正　正木　淨敎　雨宮　尙治

野上　俊靜　上村　幸次　北條　正韶

會計委員　吉田嘉一郎

編輯後記

○去年の初夏に諸講師の追悼號（第二號）を出して痛恨を訴へたのも、つひ此間の如く思はれる今又、忍び寄り深み去り行く秋風のしそれに似て果敢なく卒然として逝かれた小島惠見教授に再び涙を新にしなければならぬことは重々當學會にとつての大なる痛手であり、不幸である。此處に謹んで深く哀悼の意を表する次第である。

○扨て、次號第拾九卷第一號（明春一月下旬發行の豫定）には、久しく出づ可くして出なかつた（大谷學報の前身である佛教研究創刊號より現在に至る）既刊學報分類總目錄（Author Index を附す）を、別冊として、拾九卷と云ふ中途半端乍ら是非編纂しなければならぬと思ひ立つた。

○さうした動機（モチヤウ）を醸成せる直接的なものは、各方面より頻りに需められてゐる事實と、學に對する目錄の存在の重要性（ヂユウヤウセイ）、必要性（ヒツヤウセイ）と云ふものは、本來その卷數なり號數なりに依つて斷じて規定せらる可き性質のものではないと考へたからである。會員諸賢もこの編輯子の微意を汲まれて、同目錄刊行に御賛同あらんことを切に御願ひするのである。

○尚、本號より遲蒔乍ら新に寄贈交換圖書雜誌目錄欄を設けて第三號發刊以後のものを五十音順に列擧した。

○次に第拾八卷各號目次の正誤を掲ぐ。

正	誤
願信相應の論理的構造	——倫理的構造——（第二號）
神祕神學の中心問題 —Contemplation—	—Contemplation— （第三號）

大谷學報

年四回發行

一月・四月・七月・十月

會費 年額 金參圓（但前金送料共）

定一部價賣 普通號 金八拾錢（送料六錢）
特輯號 隨宜申シ受ク（送料六錢）

廣告料

	一頁	半頁
普通頁	弍拾圓	拾弍圓
表紙裏	參拾圓	拾七圓

昭和十二年十月十五日印刷
昭和十二年十月二十日發行

（第十八卷・第四號）

編輯兼發行者 大谷學會
右代表者 宮谷法含
印刷者 須磨勘兵衛 京都市北小路通新町西入
印刷所 大谷大學出版部 京都市烏丸頭大谷大學內

不許複製禁轉載

發行所 京都市烏丸頭大谷大學內 大谷學會庶務部
電話西陣一六四〇番
振替口座大阪六七一八五番